



せとうちクリーンアップフォーラム ～美しい海を瀬戸内から～

助成区分

植樹

環境保全

調査・
研究

教育・
啓蒙

実施状況

参加者数: 257人
ごみ回収量: 505kg

海岸クリーンアップ5回実施
オアシスマップ作成、スポット追加
で36ヶ所以上設置(2019年7月現在)

活動の全体目標に
対する達成度

100%

活動目的

世界的にはマイクロプラスチック問題が取り上げられ、その対策が進められているものの、日本では対策が遅れており、早急な対策が求められています。

このような中、県民に海ごみの事を知ってもらおうと共に私たちに何が出来るかを考え、行動できるきっかけや活動の場をつくることによって、現在の海を守り、将来の海(海洋資源や遊び、楽しみ、癒しの場)を守る一助にしたいと考えています。

活動内容

- ・海岸クリーンアップを5回実施(国際海岸クリーンアップ(ICC)手法を利用、気づきを大切にされたクリーンアップを実施)
- ・クリーンアップリーダーの育成(OJT方式で活動時にグループリーダーとして、参加者の安全管理や学習効果を高める)
- ・マイボトル、リユースカップの利用促進(ペットボトル等のプラスチックごみの削減を目的)
- ・オアシスマップの作成(ペットボトル等のプラスチックごみの削減を目的として、マイボトルへ水やお湯の補給が出来るオアシスポットをWeb上に掲載) ⇒「オアシスマップ 高松」でインターネット検索するとトップに表示されます。



クリーンアップの様子



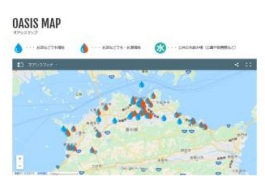
ICCの調査(リーダー説明)



海ごみの説明



集合写真



オアシスマップ

成果

- ◆海ごみゼロアワードで最優秀賞に次ぐ日本財団賞を受賞(環境省、日本財団が共同開催)
- ・アイデア部門での受賞となり、海ごみの発生抑制・発生元対策で取り組んでいる「オアシスマップ」が評価された。
- ◆海岸クリーンアップ(5回実施)
- ・257人に参加してもらい、505kgの海岸ごみを回収することができました。
- ・以前は参加者の集まりが少なかったが、最近では定員を超える申し込みが得られるようになってきている。また、若者(中学生や高校生)の参加が得られるようになった。
- ・ICC手法を使うことにより、参加者に多くのプラスチックごみや破片化したプラスチックごみの存在に気が付いてもらえました。また、問題意識が芽生えました。
- ・リーダーを配置することにより、参加者の気づきや学習を深化、満足度を上げる事が出来ました。
- ◆オアシスマップ作成
- ・オアシスマップを作成し、36ヶ所以上設置(2019年7月現在)して補給場所を掲載しました。
- 新聞、テレビ、ラジオなど多くのマスメディアに取り上げてもらい、活動の広報が行えました。

工夫した点

- ・ICC手法を利用した海岸クリーンアップ実施。
- ・海岸クリーンアップの時に理解を深めるために、班リーダーを配置して説明を行いました。
- ・海や山の恵みを感じ、この恵みを守るための方法(海ごみを減らす、海の環境保全)を参加者に考えてもらいました。
- ・「うどん店」にオアシスポットの協力をしてもらって数を増やすことが出来ました。また、取組みや内容の面白さからマスコミなどによる取材が多くあり、周知につながりました。

今後の課題

- ・今季事業としては100%目標に達成していますが、海ごみ(プラスチックごみ)の問題解決には、まだまだ時間を要します。
- 引き続き、気づきを大切にされたビーチクリーンアップを行いながら、海ごみの問題を知る人を増やすのに合わせて指導者(リーダー)の育成を行う必要があります。
- ・参加者も増加しているため、ニーズに応えた受け入れを継続的に行うためには、リーダーやスタッフ、費用が必要です。
- ・リユースカップ、マイボトルの利用促進を引き続き行いながら、より利用しやすく、より利用者を増やすために、オアシスポットの数を増やすと共にオアシスマップの情報更新と紹介を行う必要があります。